

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	関東化学伊勢原新棟	階数	地上7F
建設地	伊勢原市鈴川21番地	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年4月1日
敷地面積	2,368㎡	作成者	株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所
建築面積	1,182㎡	確認日	2019年4月1日
延床面積	6,086㎡	確認者	株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記① オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 4.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 本計画建物は、伊勢原市内に建設される研究所・製造工場である。 低層部(1~3F): 倉庫・工場、上層部(4~7F): 研究所の地上7階建ての施設である。		その他 -
Q1 室内環境 ・照明の自動制御や床吹き出し方式の空調設備の採用等、室内環境の向上に配慮した計画としている。 ・全館禁煙や十分な換気量の確保等により、良好な室内空気質に配慮している。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い部材を使用し、建物の耐用性の向上を図っている。 ・ISS階の設置により、設備の更新性に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・自生種の採用等、緑の量・質の確保に配慮した植栽計画としている。 ・敷地外周部のグリーンベルトによる良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー ・主要な用途別にエネルギー消費量を把握・分析可能な計画とし、エネルギーの効率的な運用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具、リサイクル材、高強度の構造材、ノンフロンの断熱材を採用する等、資源・環境に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される